EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER

58104863

PUBLICATION DATE

22-06-83

APPLICATION DATE

16-12-81

APPLICATION NUMBER

56203116

APPLICANT: FUJI XEROX CO LTD;

INVENTOR: TAKAHASHI HIROSHI;

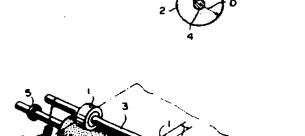
INT.CL.

: B65H 27/00 B41J 13/02 B65H 5/06

F16C 13/00

. TITLE

: PAPER FEED DEVICE



ABSTRACT: PURPOSE: To enable a paper feed with no snaking motion without increasing the number of rolls while leaving the roll surface smooth by applying a pinch force so that hard rolls with a narrow width sink deep into a long and slender roll by the thickness of the paper and more.

> CONSTITUTION: By making hard rolls 1 sink into an elastic roll 2 by the thickness of the paper S or more, the smooth elastic roll can obtain a friction force equal to or more than that of a roll applied with a pattern or a hallmark, and besides, the change of the friction force is small as compared with a roll having a pattern or a hallmark. In addition, to maintain the friction force of the elastic roll 2 constant, the axial direction length W of the hard roll 1 is selected to be twice the diameter D of the elastic roll 2 or less. Accordingly, the friction force of the elastic roll 2 is maintained high and constant and the paper S can be fed with no snaking motion under a constant friction force by limiting the pinch width of the paper S by means of the hard rolls 1.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

BEST AVAILABLE COPY

(9) 日本国特許庁 (JP)

00特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭58—104863

60 Int. Cl.3

識別記号

庁内整理番号

砂公開 昭和58年(1983)6月22日

B 65 H 27/00 B 41 J 13/02 B 65 H 5/06

F 16 C 13/00

7376-3F 7810-2C 6662-3F 6907-3 J

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 3 頁)

50紙送り装置

20特

昭56-203116

石舘義之

20出

昭56(1981)12月16日

70発明 者

> 海老名市本郷2274番地富士ゼロ ツクス株式会社海老名工場内

> > ili.

⑩発 明 者 髙橋博

> 海老名市本郷2274番地富士ゼロ ツクス株式会社海老名工場内

人 富士ゼロックス株式会社 勿出

東京都港区赤坂3丁目3番5号

弁理士 中村稔 個代 理 人

外4名

1.発明の名称

ユ特許 曽木の範囲

少なくとも2つのロールを用いて両ロールの間 に紙を挟持させ、ロールの回転によつて紙を送る よりになつた装置において、一方のロールは送る べき紙の個以上の長さを有し且つ表面の平滑な細 長い男性ロールであり、仙方のロールは前配界性 ロールよりはるかに硬度の高い材料 で成り且つ約 記弾性ロールに接触する部分の軸方向長さが放射性 - ルの直径の2倍以下である、表面の平滑な硬 賞ロールであり、鉄硬賞ロールが紙の厚さ以上に 課く前記弾性ロールに沈むようなピンチ力が与え られているととを特徴とする紙送り装置。

3.発明の詳細な説明:

- 本知明はよつのロールの間に紙を挟持し、ロー ルの回転によつて紙を送る紙送り装置に関する。

従来の紙送り製置には、細長いゴムロールと删 長い金属ロールとを用いて紙送りを行なりもの、 あるいは一方のロールの軸方向長さ(すなわち暢) を狭くして紙送りを行なりものがある。この紙送 り芸量では何の広い紙やトレーシングペーパのよ うに運変変化の大きい紙を送る場合、紙がスリッ プして蛇行するととがあつた。との蛇行の防止の ため、ロールの数を多くすることが試みられたが、 構造が複雑になり、また同期合せも面倒であつた。 これとは別に、ロールの製面にあや目等の模様を 施として摩擦力を増すようにしたものもあるが、 その摩擦力が走行速度や紙質等によつて変化して 蛇行を完全に防ぎきれなかつた。

従つて、本発明の目的はロールの数を多くする ことなくしかもロール表面を平滑すなわち無模様 のままで蛇行のない紙送りを行なり紙送り装置を 提供するにある。

J 40 V V

以下関面を用いて本発明の実施例を説明する。 第/関は本発明による紙送り装置を示しており、 散紙送り装置は軸方向長さ(すなわち報)の狭い ロール1と送るべき紙Sの概以上の軸方向長さを 有するロール2とから成る。ロール1はシャフト 3に囲転自在に支持された2つのロールであり、 その材料は金具等の便能の高い材質で成りその表 面は模様や刻印のない平滑なものである。

ロール2はシャフト4に固定されており、このシャフト4は両側のペアリング5により回転日でに支持され、更にシャフト4の一方の端にはスプロケット6が固着されている。このスプロシルの動力が伝達されてロール2が回転されてロール2は送りロールとしば出する。このロール2は音の弾性材で成り、平滑なものである。

便質ロール1を回転自在に支持するシャフト3の両端にははね8が設けられてかり、このはねの他端は機械フレーム(図示せず)に固定されば質ロール1を弾性ロール2に押し付けるようにして両ロール間に狭力すなわちピンテカを与えている。とのピンテカにより、第2図に示すように、この関ロール1は弾性ロール2に改させるの関されている。使領ロールるようにピンテカが選定されている。使領ロール

1 が界性ロール2 に低るの厚さ以上に沈み込むと とにより、平滑な界性ロールに模様や刻印を施と したのと同等以上の摩擦力を得ることができ、し かも模様や刻印等のような摩擦力の変化も少ない。

更に、本発明にかいては弊性ロールの摩擦力を一定に維持するために、硬質ロール1の難方向長さ(すをわち傷) W(第 / 图)が弊性ロール2の直径D(第 2 図)の 2 倍以下になるように過定されている。このように硬質ロール1による紙Sへのピンテ係を制限することによつて、弾性ロール2の摩擦力は高いままー定に維持され、知印や模様を施としたロールのような変化はなく、例え変化したとしても紙の送りに影響を与えず、使つて、紙Sは一定の摩擦力により蛇行することなく送られる。

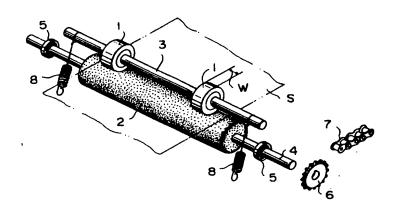
をか、ロール1はシャフト3に対して開版自在 に支持されるが、そのはめ合いはするまぱめ以外 のものなら何でもよく、例えばポールペアリンタ によつて支持することができる。これによつて要 質ロールの掛れを最小にすることができる。更に、 シャフト3を機械フレームに扱れなく回転自在に することもでき、この場合ロール1はシャフト3 に対し回転自在に支持する必要がなくなる。

本発明によれば、 2 つのロールに対して模様や 対印を施とすととなく平滑なままで一定の単掛力 を維持できるので、 紙の蛇行を防止でき、また構造が簡単なので加工費や組立費を低級することが できる。

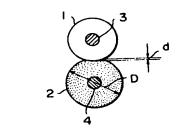
4 関面の簡単な説明

第/図は本発明による紙送り装置の斜視図、 第 2 図は 2 つのロールの関係を示す説明図である。

1 …硬質ロール、2 … 弊性ロール、3、4 … シャフト、5 … ペアリング、6 … スプロケット、7 … チエーン、8 … はね、5 … 紙。



第2図



BEST AVAILABLE COPY